

農業経営部会通信

今月の例会報告

💡 2月も様々な分野で学び合い

12月、1月に引き続き2月も活発に学び合う例会が開催されました。2月は計3回の勉強会が行われ、GAP・HACCP・ISO、農業経営、新作物へのチャレンジと様々なテーマで、学びました。

2/5には東京から住化アグロソリューションズ(株)の河西社長と帯広畜産大学の渡辺氏をお招きし、認証制度の現状と取組方について学びました。住化アグロソリューションズはGAP農産物にこだわり、販売店への卸や消費者らへの啓蒙をしています。現状としては消費者の認知度は低く付加価値にはなりにくいことを赤裸々に報告し、生産者もそれをしっかり認識して今後の営農活動に取り組まなければならないことを確認しました。渡辺氏からは認証制度について概要が解説され、それぞれの農場・企業に合った制度を活用し適切な運用をすることで自社の経営の見直しにもなり、書類も減らすことができると伝えました。「あくまで、認証制度は自社のために経営を見直すための制度。現状は付加価値につながりにくいこともあるが、そのためではなく自然とすべての農家が取組むようになればその価値も現れてくるはず。」と今後への期待で締めくくられました。

2/13には中標津で酪農・大麦加工・コントラクターの3社を経営する(有)希望農場の佐々木社長に自社の経営と本業に留まらない地域での活動とその想いについてお話頂きました。国内有数の酪農地帯である中標津ですが、そこで畑作もできないだろうかと大麦などの生産に着手。クラフトビール生産に向けて中標津クラフトモルティングジャパン(株)を設立し、現在は焙煎麦茶を販売しています。今後の展望も熱く語り、参加者は幅広い活躍とその想いに学ぶとともに自社が何をできるのか何がしたいのか考える良い機会となりました。

2/26には芽室町で北海道では珍しい落花生の栽培に取り組む十勝グランナッツ(同)の藤井氏にお話頂きました。千葉が名産地として知られる落花生ですが、JA青年部やグループ活動をきっかけに落花生栽培に取り組み始め、「十勝を落花生の生産地に」という想いのもと昨年協力企業とともに合同会社を設立。藤井氏は生産者組合の代表を務めます。課題はなんとといっても気温。本州とは大きく気温差

🗨️ 今後の予定

● コロナに負けない！十勝は元気です！

昨今、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい北海道も緊急事態宣言が出されるなど日本経済全体が混迷していることは事実です。部会員の多くが少なからず影響を受けています。農業経営部会も3月は活動を自粛。新年度に向けて慎重に議論を進めながらも、例年多くの方に楽しみにして頂いている8月の収穫感謝祭や、たくさんの部会員で賑わう5月の会員交流会などに向けて開催の方向で準備をしています。



↑講演する河西氏(左)と渡辺氏(右)



中標津について語る
佐々木氏→



落花生を手に解説する
← 藤井氏(中央左)

がある上、適した機械も日本ではあまりない状況です。今後は、工夫を凝らしつつ新たに機械化できる部分は機械化を模索していくそうです。十勝特有の日照時間の長さからか品質は良く、食べた方からも美味しいと評判を頂けています。まずは十勝の多くの方に食べてもらい、少しずつ広げていければと考えています。お話を聞いた後、実際に農場で機械や作物を見学し、参加者は興味深く聞き入りました。今後も輪が広がりそうです。

この時期多い北海道物産展の中止が相次いだ影響で在庫が残っている部会員もいます。同友会とかち支部や札幌商工会議所など応援ページを活用しPRしています。遠くへの外出が難しいご時世ですのでそれぞれのご自宅で北海道の美味しいものを楽しんでみてはいかがでしょうか？※食べ物を通しての感染は現在まで確認されていません。今までと変わらず自慢の品質をぜひお楽しみください。